

令和元年

第6回国立市農業
委員会總會議事録

国立市農業委員会

令和元年第6回国立市農業委員会総会日程

1. 日 時 令和元年6月26日 午前10時開会
午前10時45分閉会

2. 場 所 国立市役所 議会委員会室

出席者

1. 遠藤 利光 2. 遠藤 久 3. 北島 義昭
4. 小鹿倉 薫 5. 佐伯 達哉 6. 佐伯 雅宏
7. 佐藤 満雄 8. 澤井 武 10. 田中 賢治

事務局

- 事務局長 関 慎一 事務局長補佐 関 吉孝
農政係主任 冷水 英介 農政係主事 吹春 雄章
嘱託員 澤田 恵美子

3. 議事録署名委員の指名

4. 議 題

- (1) 農地法第4条第1項第7号の規定による農地転用届出書 1件

5. 協議事項

- (1) 稲作体験学習会（田植え）反省
(2) 第59回企業的農業経営顕彰事業に係る候補者の推薦について
(3) 第42回国立市農業まつりについて

6. 報告事項

- (1) 第39回農業後継者顕彰事業における候補者の決定報告
(2) 内田農業振興会第53回農業功労者表彰候補の推薦について
(3) 生産緑地地区の追加指定について
(4) 特定生産緑地指定事務に係る今後の予定について

7. その他

【北島会長】 おはようございます。総会を始めさせて頂きたいと思います。先日の田植えはご苦労様でした。稲も順調に育っているようです。議事録署名委員の指名は、7番、佐藤満雄委員と8番、澤井武委員にお願いします。議題(1)農地法第4条第1項第7号の規定による農地転用届出書1件、よろしくをお願いします。

【事務局長】 配付資料の1ページをご覧ください。番号1、議案番号6、届出者住所氏名、土地の表示、所在地番、地目、面積、転用の計画、目的、転用の時期、種類・数量・面積、周囲の状況は表記のとおりです。

【北島会長】 ありがとうございます。これは、澤井委員が現地確認ですか。

【澤井委員】 5月31日に現地を確認してきました。現状は、共同住宅とその駐車場、それから畑として使われていました。共同住宅の建替が計画されているというお話でした。

【北島会長】 ありがとうございます。何かありますか。よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【北島会長】 では、協議事項に移りたいと思います。(1)稲作体験学習会(田植え)反省をよろしくをお願いします。

【事務局】 説明させて頂きます。6月21日の田植えは、皆様、お疲れ様でした。本件についての資料はありませんが、次年度田植えにつなげていくために、何か反省点等がありましたらこの場で協議頂きたいと思いますので、よろしくをお願いします。

【北島会長】 どなたかご意見はありますか。

【佐藤委員】 一小は、11時から始まりですが11時5分頃に到着しました。始まったのが、11時10分頃だったので、せめて10分ぐらい前までには来るように連絡してもらいたいと思います。

【事務局長】 二小、四小は結構早く到着されて、その中でも、各小学校、農業委員、支部長も割り当てして頂いたのですが、臨機応変に応援に入って頂きまして、非常に早く終わることができてありがたく思っています。ありがとうございました。

【佐伯(達)委員】 始まりの9時というのがいろいろ課題がありまして、オープニングセレモニーとかの関係で、どうしても始まりが9時20分になってしまいます。10時からの班が、前の班が終わる段取りになっていないのです。もし次の10時からの分をきちんととれる形をとるのであれば、時間をずれ込ませる形にするのか、何かいい方法はありますか。

【北島会長】 前倒しというのは難しいです。

【佐伯(達)委員】 ただ、今回も9時20分から始まっているのです。そうなったら、次の10時からはどうしても無理になるのです。田んぼに入る学校の並びもごみごみしてしまって、どこの区分が小学校の割り振りなのか、ごった返してしまう形になったので、その辺が課題かと思いました。

【北島会長】 あの時間帯は、学校が6校集まっていますから。

【佐伯(達)委員】 段取りどおり流れれば3校でうまくいくのですが、終わっていない段階で、次の10時からが待ち切れないようです。時間なのでその場所に集めるのは当然ですが、そこでごった返してしまうので、何か方法があればと思います。

【北島会長】 皆さん、どうでしょうか。

それと、植えるときに、赤いテープが巻いてあるメジャーですが、あの置き方を手前にすると、どうしてもひもを引っ張ってしまって、稲が踊ってしまいます。なので、来年からは逆にした方がいいと思います。

【田中委員】 手前ということですか。

【北島会長】 稲がここにあって、ひもをこっちにする。手前ではなくて、奥です。ひもを持ち上げておくように。

【遠藤（利）委員】 今度は手前に植えるということです。

【北島会長】 そうすればいじらないですから。でないと、稲が踊っていました。

【遠藤（久）委員】 確かに、植えるときに一緒に押してしまうのです。だから、みんな見えなくなっていました。

【田中委員】 水の張り方もあったから、どろどろになると埋まっていて、足で踏んでしまう子もいましたし、埋まって出てこないという稲もありました。

【遠藤（久）委員】 かえって難しいことをやらせた感じになってしまいました。

【佐藤委員】 それから、ばか棒を1本でやっていると間隔が長くなってしまいます。棒に30cmの印をつけて動いていった方がいいです。最初は、広いからといって途中で直しているところもあるから、刺すのは長くてもいいけれども、棒に目印をつけておいた方がいいです。

【北島会長】 広いところと短いところの差が大分ありました。

【佐伯（雅）委員】 今年は、皆さん元気がよろしくてとても楽しかったのですが、教えるときに、赤い帽子とか、青いTシャツとかと言っていたので、例えば番号とか名前がわかればいいです。ちょっと離れているときに、そこまで行けばいいんでしょうけれども、その人の名前がわからないので、困ってしまいます。

【北島会長】 名前をつけてくれというのも難しいのですか。

【佐伯（雅）委員】 番号でもいいです。今年は、特に一小が元気がよかったので、注意するのにも大変でした。

【北島会長】 指導するのに、その黄色い帽子などの呼び方になってしまっていますね。

【佐伯（雅）委員】 Tシャツの色とかで言っていたのですが、向こうになかなかわかってもらえないのです。

【佐伯（達）委員】 反応がないとどうしても大きい声になります。それがいいのか、悪いのか。

【佐伯（雅）委員】 例えば、目の前にいる子なら、そこは持つところが違うよ、根っこを持ちなさいと言えるのですが、3人ぐらい離れていると、誰に言っているかわからないようです。私はその子を見ているのですが、子どもは私を見ていないですから。何かいい方法があれば、宿題ということでお願いします。

【佐藤委員】 それから、次の学校を呼ぶときに、中に入っている人が呼びに行くのではなくて、連絡係をつくっておいて、トランシーバー何かで連絡した方がいいのではないですか。

【北島会長】 今、やっているのではないですか。

【佐藤委員】 今年、行けと言われたのです。

【事務局長】 田植えの流れには書いたのですが、担当の農業委員さんが小学校を迎えに行くということが基本です。

【佐藤委員】 でも、出て行って行ったり来たりしていると大変だから、市役所が無線で連絡してやったほうがいいのではないですか。

【事務局長】 急遽、今年はそうしました。基本的には行って頂くということでもあります。

【佐伯（雅）委員】 田んぼの中で動いているならいいのですが、田んぼの中を出たり入ったりは結構大変です。

【事務局長】 農業委員さんが田んぼから出ていないというのであれば、今年みたいにそうできるのですが、さっき佐伯達哉委員が言われたように、順番を遅くするとか、農業委員が終わって待っている状態からスタートするというのであれば、それ相応の対応はできると思います。

【佐藤委員】 農業委員たちは田んぼで待っているのです、市役所側で連絡ができないでしょうか。

【北島会長】 状況判断でいいのではないですか。今回みたいに学校がいっぱい来てしまって、ごちゃごちゃしていると、無線でないとできないです。

【田中委員】 今回は、一方通行でもなくなったし、終わったら、こちらに抜けるのが戻ってきましたから。

【北島会長】 それは臨機応変に考えてもらって。

【遠藤（久）委員】 もう1つだけ。佐伯達哉委員と最初のクラスでまごついて一緒にやったのですが、そのときに3つに分けてしまったのです。後から思ったのは、70人近かったのですが、2つに分けて目いっぱい入れてやれば、もうちょっと早く終わったかと思います。その後のクラスはみんな目いっぱい30人ぐらい入れたのですが、最初は3回に分けてしまったのでなおさら遅くなってしまって、だから、最初から目いっぱい詰め込んで、2班で分ければよかったです。

【田中委員】 2つに分けられればいいのですが、四小は80人ぐらいいました。

【遠藤（利）委員】 最初は3班でやろうと思っていました。

【田中委員】 それで、2班に詰めたのですが、そうすると1人1.5個ぐらいしか植わらないです。

【遠藤（利）委員】 時間との絡みがあるし、早く帰りたいだろうし、それでいいのではないのですか。

【田中委員】 去年は、ダブルでやったことがありました。両側から始めていったときもあったし、ちょうど日も合ったので、2校一遍に始めたこともありました。

【遠藤（利）委員】 あと、小学校を班で担当していますでしょう。メンバーがかわらなければいいのですが、メンバーがかわると、誰々さんは中へ入って指導してくださいとか、苗を渡してくださいとか、朝、打ち合わせをするのです。ところが、違う班員になると、それが崩れてしまうわけです。ですから、できれば同じ班員でやれば、スムーズに作業も流れると思います。

【事務局長】 そこを重要視されるということであれば、小学校を待ってもらうように協議しますので、ここでそういうことで決まりましたら、担当の小学校が終わるまで、次の小学校は待ってもらって、空いたら呼んでくるというルールにきちんと統制できるので、この場で協議頂いてと思います。

【佐伯（達）委員】 あと、もしできるのであれば、午前9時からという学校の配分を生徒数が少ない順番からやったらどうですか。今回、9時から始まるのに三小の81人という多いところから始まっているので、セレモニーがずれ込むのは仕方がないのであれば、9時に生徒数が少ない学校3校を先に持ってくれば、効率がいいと思うのですが、どうですか。

【佐伯（雅）委員】 こちらで小学校の順番を指定できるのですか。

【事務局長】 これは全て学校に調整してもらっているのです、各小学校が、学校を出発する時間と帰る時間が計算されていると思います。

【北島会長】 学校の遠い、近いがありますからね。

【佐伯（達）委員】 記憶では、9時からの八小がスムーズだったのです。生徒数が46名の記載があるので、だから、やはり人数の少ないほうが前に来て頂ければ。

【田中委員】 人数が多いと、さっき言ったみたいに、詰めても2つには詰まらないです。3つに分けると、結局その分時間がかかってしまう。

【遠藤（久）委員】 詰めて、せいぜい35人ぐらいですね。それを超えてしまうと……。

【佐伯（達）委員】 10時からの小学校は、終わった後の時間がかなり余裕がありました。

【遠藤（利）委員】 真ん中はそうです。

【田中委員】 もしくは、3つにどうしても分けなければいけないのであれば、班を同時進行してしまおう。

【北島会長】 後ろと前の2つですね。

【田中委員】 一遍にやれば、2つに分けたのと同じなので、そうすれば、時間を少しは短縮できると思います。

【遠藤（利）委員】 指導する人がいないのではないですか。

【田中委員】 そこはこちらでどういうふうに調整するかです。

【遠藤（久）委員】 さっき言ったのは同時進行だったのです。こっちが終わっていなくても、私がそっちの新しいほうに行ってやっていたので、それは余った人間でやるしかありません。

【田中委員】 今回、それで余計時間かかることもあったし、一方通行で出られれば、またちょっと違ったけれども、結局、こっちからぐるっと回って出てくるという流れで、今回はいろいろな課題もありました。去年はたしか同時にやった記憶があって、それなら人の手配だけなので、間に合います。

【遠藤（久）委員】 それをやりやすくするには、同時進行する場合は、なるべく隣の畑にしてもらえればと思います。うちの場合は1個離れた向こう側だったのですが、すぐ隣だったら移動しないでそのままできますから。

【田中委員】 1つの区割りで、両方からこういうふうに攻めてきて、真ん中のところはどっちかでやってもらった方がいいです。

【北島会長】 3班になれば、そういうやり方しかないですね。

【田中委員】 どうしても、詰めると本当に狭いです。1株か2株になってしまいます。

【遠藤（利）委員】 あと、区画のひもは要らないです。

【田中委員】 黄色い区割りですか。

【遠藤（利）委員】 植えるときに邪魔です。

【北島会長】 でも、ひもがないと区画がわかりません。

【遠藤（久）委員】 どこまでやっていいかわからないです。

【田中委員】 あれがないとスタートがわかりませんから。

【遠藤（利）委員】 でも、間隔の棒があります。

【遠藤（久）委員】 あるけれども、飛び飛びで入っているから、小学校は、どこまで植えていいかわからないです。

【田中委員】 だから、1個飛ばしで来るから。

【遠藤（久）委員】 端からならわかるけれども。

【遠藤（利）委員】 小学校の印を端にすればいいのではないですか。一小のスタート、二小のスタートの位置に置けば。

【田中委員】 ひもを張らなくても。1校目をやれば、そこから行けばいいですか。

【遠藤（利）委員】 棒だけ残していてもいいです。

【遠藤（久）委員】 でも、終わりが何となく曖昧になります。

【遠藤（利）委員】 出るのにも邪魔だし、ダブってしまって植えるのにも邪魔です。

【北島会長】 来年は、ひもを張らないでやってみますか。

【遠藤（利）委員】 学校の印だけ、あるいは棒だけでいいです。スタートの位置だけわかればいいのでしょうか。

【北島会長】 あと何かありますか。

【田中委員】 学校側から何かあるのですか。

【事務局】 今のところ、聞いていることはありません。

【田中委員】 次に稲刈りがありますから、そのときにも確認しましょう。

【北島会長】 では、よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

【北島会長】 （2）第59回企業的農業経営顕彰事業に係る候補者の推薦について、よろしく願います。

【事務局】 事務局より説明させていただきます。こちら資料はありません。本件は、前回の総会で取り上げさせて頂いたかと思しますので、引き続き、候補者について協議をお願いできればと思います。

【北島会長】 どうでしょうか。推薦があるのですが、佐伯達哉委員を推薦したいのですが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

【北島会長】 では、佐伯達哉委員、よろしく願います。

【佐伯（達）委員】 特にほかの地区でいないようでしたら、この場で承認頂ければ受けさせて頂きますので、よろしく願います。

【北島会長】 （3）第42回国立市農業まつりについて、よろしく願います。

【事務局】 事務局より説明させていただきます。昨日25日に農業まつり実行委員会がありました。今、同イベントにつきまして、企画の調整を進めている段階です。今回の総会では、皆様に、例年行って頂いています苗木の配布の樹種選定についてご協議頂ければと思います。資料3ページ目をご覧ください。例年、配布の苗木につきまして、東京都苗木生産供給事業を活用して、苗木を頂いています。今年度の樹種につきましては、4ページ目からお選び頂ければと思っています。ちなみに、昨年度は、シャクナゲを40本、アベリアエドワードゴーチャを40本、ブルーベリーを60本、オリーブを60本の計200本をご選定頂きました。今年度につきましても、選定を頂ければと思います。

【北島会長】 どうでしょうか。去年と同じでいいでしょうか。何か変わったものにしますか。

【佐藤委員】 同じでいいのではないですか。

【北島会長】 では、去年と同じということです。それと、農業まつりは、農業委員会としては、

今年もふかした里芋を配るということでよろしいでしょうか。

【田中委員】 良いと思います。

【北島会長】 農業まつりについて、皆さんから何かありますか。

【佐藤委員】 もう日にちは決まりましたか。

【事務局】 11月9日、10日の土日になりました。

【田中委員】 明治神宮の宝船はいつですか。

【遠藤(久)委員】 13日ではないですか。今年は違うのですよね。

【田中委員】 早くなったのです。

【北島会長】 よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【北島会長】 では、報告事項です。(1)第39回農業後継者顕彰事業における候補者の決定報告について、よろしくお願い致します。

【事務局】 事務局より説明します。前回の総会で協議頂きました候補者につきまして、こちらから会長を伴い、正式にご依頼をしてきました。結果として承諾頂いたということで、今後、推薦書等につきまして、事務局で調整を進めていきたいと思っております。以上、報告です。

【北島会長】 よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

【北島会長】 続きまして、(2)内田農業振興会第53回農業功労者表彰候補の推薦について、よろしくお願い致します。

【事務局】 それでは、資料5ページ目をご覧ください。ご覧のとおり一般財団法人内田農業振興会より依頼を頂いています。こちらにつきましては、市内の農業者からJAと農業委員会と協議の上、推薦して頂くものとなっています。資料6ページ目をご覧ください。表彰規程第2条に推薦に該当する農業者を定めています。農業の発展または振興に功労のあった者、また、農業後継者の育成に功労のあった者ということで定めがあります。また、表彰細則第4条につきましては選彰基準を定めていますので、ご確認頂ければと思います。こちらにつきましては、会長、事前にご協議頂いているということですね。

【北島会長】 はい。これは、今年は国立が当番ということで、農協の理事と幹事と協議した結果、Aさんを推薦しようということで、本人にも会って、受けてくれるということになりましたので、ご報告します。

【事務局】 ありがとうございます。今後、事務局で推薦の準備を進めていきたいと思っております。よろしくお願い致します。以上です。

【北島会長】 (3)生産緑地地区の追加指定について、よろしくお願い致します。

【事務局】 資料9ページ目をご覧ください。本年度も生産緑地の追加指定を行う運びとなりましたので、農業者の方々に回覧したいと考えています。期間につきましては7月18日木曜日から7月31日水曜日、平日のみ、時間につきましては午前9時から午後5時、場所は国立市役所3階、都市整備部都市計画課都市計画係にて受け付けを行います。また、平成30年度から生産緑地の区域の規模が300平米以上が指定の対象となっています。合わせて、資料10ページ目をご覧ください。過去に農地転用の届出が出された土地につきましても、一定の基準を満たす場合に申請をすることができるようになりました。ですので、本年度は、資料10ページ目を裏面としまして通知文を調整し、回

覧させて頂きたいと考えています。市内農業者は農業協力員を通じた回覧、市外農業者は個別郵送で対応したいと考えています。報告につきましては以上です。

【北島会長】 皆さんから生産緑地について何かありますか。よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

【北島会長】 （4）特定生産緑地指定事務に係る今後の予定について、よろしくお願ひします。

【事務局長】 それでは、お手元の資料13ページをお開きください。これは都市計画課から提供頂いた資料になります。特定生産緑地指定手続きスケジュール（予定）という資料で、左から令和元年度、右で令和4年度という時系列になっています。左から緑色の部分を順番に説明させていただきます。まず、令和元年度8月に都市計画課から土地所有者1人1人に郵送で申出基準日、平成4年、平成5年、平成6年生産緑地指定の方に対して書面を送付し、それぞれの方がどこの地番を持っているかということでお示しさせて頂くものです。一緒に次の緑色の部分、制度意向確認アンケートということで、特定生産緑地制度をどの程度ご存じか、あるいは特定生産緑地の指定の希望はあるかなどの簡単なアンケートを同時送付させていただきます。次に、令和2年1月から3月ということで、指定手続き説明会を開催させて頂く予定で、これは地区ごとに数回実施予定ということです。次に、令和2年度に入りまして、1年間を通しまして、特定生産緑地の指定受け付けを開始します。これは、国立市を3地区に分けて、1次、2次、3次の募集をするということです。また、それに漏れた方については、下の緑部分、意向確認書提出ということで、特定生産緑地に指定しない方を漏れなく確認するというので、個別に丁寧に対応していくということです。次に、令和3年度11月下旬に都市計画審議会に諮りまして、指定の公示をするということで、令和4年度の指定日、これは令和4年度の11月5日指定になりますけれども、それまでに特定生産緑地の効力を発生させ、以後10年ごとに更新していくと聞いているところです。あと、このスケジュール表とは別に、こういったお知らせをしますということで、農業協力委員さんを通じて、JAの回覧板に特定生産緑地の手続をよろしくお願ひしますという広報をしたいと思っています。以上です。

【北島会長】 何かご質問はありますか。よろしいでしょうか。では、その他に入りたいと思います。よろしくお願ひします。

【事務局】 それでは、事務局よりまず1点、農業委員会だより50号の発行についてですが、皆様のお手元に現段階の8月号の原稿案をお渡しさせて頂きました。このようなレイアウトで調整させて頂きたいと考えています。まず、1ページ目が、稲作体験学習会（田植え）を実施しましたということと、ゲストスピーカー派遣についてです。こちらにつきましては、記事の作成は小鹿倉委員によろしくお願ひします。ページをおめくり頂きまして、2ページ目ですが、第60回東京都農業委員会・農業者大会の開催ということで、昨年度2月22日に行われました同大会の記事を掲載させて頂きたいということが1点と、北多摩地区農業委員会連合会優秀農業経営者表彰の結果を記載したいと考えています。また、3ページ目につきまして、城山さとのいえについて市から情報を提供させて頂くのが1点と、認定農業者が誕生しましたということで、平成30年度の認定状況を報告したいと考えています。最後、4ページ目ですが、農業者の皆様へということで、農政の情報を提供させて頂きたいと考えています。農政の情報については、生産緑地の貸借ができるようになりましたということで、都市農地貸借円滑化法の施行と、それに関する関連法の運用の開始ということで、周知したいと思います。また、農作物栽培高度化施設の設置ということで、底面がコンクリート等で覆われた農業用施設につきまして、一定の条件を満たす

ものは農地転用に当たらないとされましたので、周知したいと思います。こちらは、事前に農業委員会への届出が必要となっておりますが、その旨も記載しています。また、収入保険制度の周知ということで、こちらは直接の問い合わせは東京都農業共済組合になりますが、この制度周知を図りたいと思います。最後には農業委員会の年間の活動予定を記載させて頂き、以上を農業委員会だよりの記事とさせて頂きたいと思います。こちらはまだ作成案ということですので、残りの記事を頂き加入しまして、印刷業者による校正を経て完成まで調整させて頂きたいと考えています。校正は委員の皆様にご覧頂いて、可能な限り7月中の納品を目指したいと考えています。その後、8月頭頃に農業者の皆様にお渡し頂くという手はずで考えていますが、また調整を進めていきたいと思います。以上です。

【北島会長】 ありがとうございます。皆さんから何かありますか。

【小鹿倉委員】 締め切り日はいつですか。

【事務局】 7月半ば頃には、業者に原稿案を提出したいと考えています。

【小鹿倉委員】 田植えとゲストスピーカーで、何かエピソードはございませんでしたか。大体同じような感じでしょうか。

【田中委員】 前回のものも参考にできると思います。

【小鹿倉委員】 ゲストスピーカーは同じような感じで全部やられているのですね。

【田中委員】 体験水田のところは新しくなったので、周りがきれいになっています。

【小鹿倉委員】 記事はこの枠の中に入れるということではなくて、とりあえず私のほうで原稿を書いていいのですね。

【事務局】 そうです。あとは事務局で調整させて頂きます。

【北島会長】 では次、お願いします。

【事務局】 それでは、農業委員5月活動カード集計結果の報告をさせて頂きます。Aの「総会・全員協議会」が10件、Eの「市民・学校教育との交流活動」が8件、Fの「現地確認」が1件、合計19件となっています。

続きましてお手元にお配りさせて頂いています5月の国立市農業委員会総会議事録案のご確認をお願いします。ご一読頂きまして、何か訂正等ありましたら、6月28日（金）までに事務局にお知らせください。

続きまして7月の総会の日程ですが、7月24日（水）、26日（金）、29日（月）の3日を候補日とさせて頂いています。よろしくをお願いします。

（協議）

【北島会長】 では、7月29日10時から、場所はここですか。

【事務局】 そうです。

【北島会長】 皆さんから何かありますか。なければ総会を終わりたいと思います。お疲れ様でした。

——了——